

書くとき \ 参考 / になる!

ケアに役立てる
書類の書き方

第1回

アセスメント表
の実例集

サービス提供責任者やホームヘルパーにとって重要な仕事のひとつである訪問介護サービスの書類作成ですが、時間も手間もかかる大変なイメージが強いのではないのでしょうか。しかし、書類を的確に作成しておけば、日頃のサービスがスムーズに進み、たとえ実地指導や監査が入っても慌てることはありません。本連載では、利用者ごと・サービス提供ごとに作成が必要となる主な4つの書類に着目。事例に近い見本を紹介しながら、それぞれの書類作成時に押さえないポイントをお伝えしていきます。

監修 柴田範子(しばた・のりこ)



NPO法人「楽」理事長として、小規模多機能型居宅介護「ひつじ雲」、サテライト「くじら雲」を運営する。神奈川県ボランティア活動推進基金審査会委員。元・東洋大学ライフデザイン学部准教授。「イラストでわかる介護職のためのきちんとした言葉のかけ方・話の聞き方」など、著書も多数。

春号 → アセスメント表

夏号 → 訪問介護計画書(予定)

秋号 → 手順書(予定)

冬号 → サービス提供の記録(予定)



アセスメント表は ケアの「基^{もと}」

そもそも「アセスメント」とは、情報収集やそこから見えた課題を分析することを指します。介護サービスを提供する際に必要となる介護計画を立てるためにも、的確なアセスメントを実施することで利用者の現状を正確に把握し、生活上の希望をつかむことが大切です。つまり、アセスメントの大きな目的は、利用者の抱えている生活課題やニーズを明らかにすること。また、課題の背景や原因を探るきっかけとしたり、それらをスタッフ間で正確に共有したりすることも目的のひとつです。

介護サービスの書類におけるアセスメント表では、利用者の生活歴やADL、IADL、健康状態などがわかるようにまとめられています。その内容は、ケアプランや訪問介護計画書にも反映され、結果的に提供するサービスの質にもつながっていくもの。つまり、アセスメント表の作成は、ケアの基盤づくりともいえる非常に重要なことなのです。

なお、アセスメント表の形式にはさまざま

な種類がありますが、日本介護福祉会は「生活7領域」として、次の7つの領域についてアセスメントすることを推奨しています。普段作成しているアセスメント表のなかで、過不足がないか確認してみましょう。

- 1 衣
- 2 食
- 3 住
- 4 体の健康
- 5 心の健康
- 6 家族関係
- 7 社会関係

アセスメント表にはたくさんの項目があると思いますが、それらを埋めることだけが大切なわけではありません。目的は「美しい書類を完成させること」ではなく、「課題分析のために必要な情報を分かりやすくまとめること」です。ケアの合間を縫って書類作成しなければならぬ忙しい皆さんにとつ

アセスメント表を作成・確認することでわかる利用者の情報は、現場で一番はじめに手がかりとなるもの。実際に提供するサービスの質にも大きくかわってくる可能性があります。まずはアセスメント表の重要性や作成のポイントを大まかにつかんでいきましょう。

情報収集&課題分析



ては、時間をかけずに効率よく的確に書類作成するという意識も重要です。

一般的に訪問介護では、書類の形式が統一されていないこともあり、「何を書けばいいのか」「どのくらい詳しく書くべきか」がわかりづらい部分もあります。70ページから、複数の事業所の具体例を見ながら、作成のコツをつかんでいきましょう。

アセスメント表作成の ポイント

ポイント 1

はじめから 完成を目指さない

新規の利用者のアセスメント表を作成する際、最初から完成した状態を目指す必要はありません。大切なのは、ケアマネジャーからの情報だけでなく、サービス提供責任者が足を運んで得た情報や、サービス提供しているホームヘルパーから得た情報を書き足していくこと。日々のケアのなかで気づいた利用者の変化や、サービス提供を重ね関係性ができてこそわかる情報などを追加することで、アセスメント表をよりよいものに更新していくという意識が大切です。

ポイント 3

「特記事項」の欄を うまく活用する

基礎情報をチェック項目で記録するだけでなく、特記事項の欄をどんどん活用しましょう。例えば、ひと口に「歩行…自立」といっても、「若い頃と同じように歩ける人」「歩くのがゆっくりで時間がかかる人」「痛みが伴うが何とか歩ける人」ではそれぞれ体の状態が大きく異なり、必要なケアも違ってくるはずです。特に、利用者の変化に気づいた場合は、特記事項に具体的な状態を追記するようにしましょう。

ポイント 2

誰が見てもわかりやすい 表現で

他職種も含めたスタッフ間の情報共有や引き継ぎなどにもアセスメント表を活用するために、利用者と直接、顔を合わせたことがない人にとってもわかりやすいよう記録を残す必要があります。具体的には、「客観的事実(例…体温37度)」と「利用者にとっての主観的事実(例…熱っぽくてだるい)」を分けて表現する、追記した部分には日付を残す、利用者以外が主語となる場合は明確に表記する、といった工夫をしてみましょう。

ポイント 4

「体」だけでなく 「心」についても記録する

介護において、利用者を支えるためには、「心」を支えることが重要です。アセスメント表作成の際には身体的な健康状態に目が向きがちですが、精神的な健康状態についても記録を残すことを心がけましょう。うつ傾向、喪失感、不安感などの症状が見られないか、それらによって生活上の困難が生じていないかといった点を記録する欄があるとよいでしょう。

次のページから、4つの事業所のアセスメント表の実例を見ていきましょう。
記入の際のポイントもあわせて参考にしてください。

要介護 1

Aさん(74歳) の アセスメント表

お客様氏名	A 様	女性	要介護 1	74歳		
実施日	29年3月5日					
実施者	〇〇					
ご本人様の意向	1人での外出が難しいので、人の手を借りたい。					
ご家族様の意向	腰に金属が入っており、転倒すると歩けなくなるおそれがあるため、必ず見守り・介助を頼みたい。					
(1)全身						
視力	<input type="checkbox"/> 支障がない <input checked="" type="checkbox"/> はっきり見えない <input type="checkbox"/> ほとんど見えない	左目の方が見えづらい	これからのことを考えると不安	不安	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ときどきある <input type="checkbox"/> ある	
眼鏡	<input type="checkbox"/> ときどき使用 <input type="checkbox"/> 常時使用				意思決定	<input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> ときどきできる <input type="checkbox"/> ほとんどできない <input type="checkbox"/> できない
目がかすむ 老眼鏡ほしい					会話	<input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> ときどきできる <input type="checkbox"/> ほとんどできない <input type="checkbox"/> できない
聴力(右)	<input checked="" type="checkbox"/> 支障がない <input type="checkbox"/> はっきり聞こえない <input type="checkbox"/> ほとんど聞こえない				物忘れ	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ときどきある <input type="checkbox"/> ある
聴力(左)	<input checked="" type="checkbox"/> 支障がない <input type="checkbox"/> はっきり聞こえない <input type="checkbox"/> ほとんど聞こえない					
補聴器	<input type="checkbox"/> ときどき使用 <input type="checkbox"/> 常時使用					
口腔	<input type="checkbox"/> 総入れ歯 <input checked="" type="checkbox"/> 部分入れ歯					
家族形態						
見取り図	部屋 Aさんの部屋	風呂 トイレ リビング	湿布で背中がかぶれている 左肩にも金具(肩が上がらない) 特に右足が痛む 座椅子がほしい		上肢(右) <input type="checkbox"/> 麻痺 <input type="checkbox"/> 痛み <input type="checkbox"/> しびれ <input type="checkbox"/> 拘縮 上肢(左) <input type="checkbox"/> 麻痺 <input checked="" type="checkbox"/> 痛み <input type="checkbox"/> しびれ <input type="checkbox"/> 拘縮 下肢(右) <input type="checkbox"/> 麻痺 <input checked="" type="checkbox"/> 痛み <input type="checkbox"/> しびれ <input type="checkbox"/> 拘縮 下肢(左) <input type="checkbox"/> 麻痺 <input checked="" type="checkbox"/> 痛み <input type="checkbox"/> しびれ <input type="checkbox"/> 拘縮	
	指先	<input checked="" type="checkbox"/> 支障がない <input type="checkbox"/> 力が入りづらい <input type="checkbox"/> 力が入らない				
介護者	介護力 <input type="checkbox"/> 常時可 <input type="checkbox"/> 日中可 <input type="checkbox"/> 夜間可 <input checked="" type="checkbox"/> 不定期 <input type="checkbox"/> ない 介護者の健康 <input checked="" type="checkbox"/> 健康 <input type="checkbox"/> 高齢 <input type="checkbox"/> 病身 <input type="checkbox"/> その他	介護者(長男)				
住環境	安全 <input checked="" type="checkbox"/> 問題ない <input type="checkbox"/> 要改善 衛生 <input checked="" type="checkbox"/> 問題ない <input type="checkbox"/> 要改善	引っ越しのため新しい環境				
疾患	心臓疾患・〇〇病院・〇〇医師・薬あり 腰痛・〇〇病院・〇〇医師・薬なし 高血圧・〇〇病院・〇〇医師・薬あり					
入院	年 月 日 ~ 年 月 日 病名 年 月 日 ~ 年 月 日 病名					

ポイント

「寝返り：できる」とありますが、素早く自然にできるのか、時間がかかったり痛みがあったりするのかなといった点を特記事項に記載すると、Aさんに対する理解が深まります。

(2) ADL(日常生活動作)			特記事項
動作	寝返り	■できる □つかまれば可 □できない	腰に金属が入っているため、動くときに痛みがあることも(転倒から寝たきりになるおそれあり) 買い物などで外出する際は、車椅子やシルバーカーを使用
	起き上がり	■できる □つかまれば可 □できない	
	立ち上がり	■できる □つかまれば可 □できない	
	座位保持	■できる □つかまれば可 □支え必要 □できない	
	立位保持	■できる □つかまれば可 □支え必要 □できない	
	移乗	■自立 □見守り □一部介助 □全介助	
	歩行	■自立 □見守り □一部介助 □全介助 □できない	
	①屋内	□杖 □歩行器 □車椅子 □その他用具使用	
	②屋外	■杖 ■歩行器 ■車椅子 □その他用具使用	
入浴	洗身	□できる □一部介助 □全介助 ■行っていない	膀胱炎になりやすいという記載は重要です。「排泄：自立」となっている場合、トイレに行く回数を減らすために水分制限しているケースも。水分の摂取量も含めて、どのようなケアが必要か確認していきましょう。
	方法	□自宅入浴 □シャワー浴 ■施設入浴 □訪問入浴 □清拭	
食事	形態	■普通食 □刻み □極刻み □流動食	膀胱炎になりやすい
	飲水	■自立 □見守り □一部介助 □全介助	
	食事摂取	■自立 □見守り □一部介助 □全介助	
	嚥下	■自立 □見守り □困難	
排泄	排尿	■自立 □見守り □一部介助 □全介助 □尿意なし	膀胱炎になりやすい
	排便	■自立 □見守り □一部介助 □全介助 □尿意なし	
	失禁	■なし □ときどきある □ある	
	①日中	■トイレ □尿器 □ポータブル □おむつ □カテーテルなど	
②夜間	■トイレ □尿器 □ポータブル □おむつ □カテーテルなど		
整容		■自立 □一部介助 □全介助	
	問題箇所	■髪 □目 □鼻 □口の周り □顔面 □耳 □爪 □他	
更衣		■自立 □一部介助 □全介助	

ポイント

膀胱炎になりやすいという記載は重要です。「排泄：自立」となっている場合、トイレに行く回数を減らすために水分制限しているケースも。水分の摂取量も含めて、どのようなケアが必要か確認していきましょう。

(3) IADL(日常関連動作)			特記事項
食事機能	準備・片付け	■自分で □一部自分で □自分でしていない	
生活機能	買い物	□自分で □一部自分で ■自分でしていない	
	掃除・洗濯	□自分で □一部自分で ■自分でしていない	
	ゴミ出し	□自分で □一部自分で ■自分でしていない	
自己管理	金銭管理	□自分で □一部自分で ■自分でしていない	
	電話・来客	■自分で □一部自分で □自分でしていない	
	郵便・書類	■自分で □一部自分で □自分でしていない	
	安全・火気	□自分で ■一部自分で □自分でしていない	
社会機能	交通手段	□自分で利用 ■介助者と利用 □利用しない	

(4) 認知・気分と行動			特記事項
気分	うつ	□ない □ときどきある ■ある	うつ病で閉じこもりがち(近所に知り合いがおらず、道もわからない)
	閉じこもり	□ない ■ときどきある □ある	
	精神症状	□妄想 □幻覚 □興奮 □せん妄	
周辺症状	徘徊	■ない □ときどきある □ある	Aさんはうつ病で不安もあるため、具体的な精神状態を確認することは、ケアをするうえで非常に大切な項目です。
	暴言・暴行	■ない □ときどきある □ある	
	昼夜逆転	■ない □ときどきある □ある	
	介護に抵抗	■ない □ときどきある □ある	

ポイント

Aさんはうつ病で不安もあるため、具体的な精神状態を確認することは、ケアをするうえで非常に大切な項目です。